

放射線科専門医研修ネットワークプログラム

1 はじめに

放射線科には、IVRを含む画像診断と放射線治療の二つの領域があり、病院機能としては、それぞれ重要な診療科目となっています。

専門医資格は、初めに画像診断と放射線治療の二領域を研修後に取得する“放射線科専門医”と、その後、いずれかを選択し、専門性を高めて取得する“放射線診断専門医”、“放射線治療専門医”があります。本プログラムは、3年間の初めの“放射線科専門医”のための研修と、希望に応じて、その後の2年間の診断、治療専門医のための研修を含みます。



プログラムリーダー 聖隷浜松病院院長補佐・PETセンター長・放射線科部長 増井 孝之

2 目的

静岡県西部と東部の市民中核病院で、いわゆる common disease と専門性の高い領域の研修を3年間で行います。更に、希望に応じて診断専門医、治療専門医への育成も継続します。

豊富な症例経験に基づく自律した放射線科専門医や診断、治療専門医となり、医療への貢献が期待される人材となることが可能です。

3 目標

日本専門機構及び日本医学放射線学会で、承認されたカリキュラムのもと規定の症例数を経験するとともに、放射線関連の各学会での学術発表や論文作成により医学への科学的なアプローチも経験します。

下記、演題発表を想定する全国規模あるいは国際学会です。

1) 日本医学放射線医学会総会 2) 日本磁気共鳴医学大会 3) 日本核医学会総会 4) 日本 IVR 学会総会 5) 日本放射線腫瘍学会 6) 北米放射線学会 7) 国際磁気共鳴医学会大会、8) 米国放射線腫瘍学会等

その他、地方会や地域のセミナー、研究会での発表には、随時参加を奨励し、その機会も提供します。

4 特徴

市民中核病院を中心に研修、教育を行い、一般病院でよく遭遇する疾患や外傷、専門性の高い病院で認められる疾患を経験できます。研修医一人あたりの最新の診断モダリティ、放射線治療手法も使用しながら経験する症例数は非常に多く、すべての領域に精通するバランスのよい放射線科専門医を育成するプログラムになっています。

また、専門医機構承認プログラムのもと、管理委員会により研修進捗、施設の状況を定期的に確認し、必要に応じて症例数等の調整をします。静岡県西部、中部、東部地区、県内合同研究会等への研修医の参加奨励と状況についての情報交換も行います。

各地域でのカンファレンスは浜松医科大学やその他の中核病院が参加する形式で、情報共有、連携が行われます。

5 研修カリキュラム

基幹施設である聖隷浜松病院と連携施設にて経験すべき症例（3年間）。

項目	目標症例数
X線単純撮影	400例
CT	600例
MRI	300例
超音波検査	120例
消化管X線検査	60例
核医学検査	50例
IVR(血管造影を含む)	30例
放射線治療	30例

行動目標

放射線科専門医の臨床能力として、専門的知識・技能に加え、医師としての基本的診療能力も習得できる。

- ・放射線科専門研修カリキュラムに定められた研修目標に照らし合わせ、各専門研修プログラムで年度次ごとの研修目標と修練内容を設定し、個々の専攻医に合わせた研修計画を明示します。
- ・年度毎に専攻医による到達度の自己評価および指導医評価を行い、フィードバックを行います。

<専門研修1年目>

原則としては基幹病院

基本的な知識：放射線科診療に必要な基礎的知識・病態を習得できるよう指導します。

技能：専門研修指導医の管理のもと、画像検査が実施可能な技能を習得できるよう指導します。

態度：医師として、医の倫理や医療安全に基づいた適切な態度と習慣（基本的診療能力）を身につくよう指導します。

<専門研修2－3年目>

知識：放射線科専門医レベルの放射線診断、IVR治療、放射線治療の知識を2年間で習得できるよう指導します。

技能：放射線科専門医レベルの疾患に対し、専門研修指導医の管理のもと、放射線診断、IVR治療、放射線治療が実施可能な技能を身につけ、必要に応じ専門研修指導医の援助を求める判断力を2年間で身につくよう指導します。

- ・知識、技能は研修コースの相違で段階的に習得できない場合があり、3年間で確実に習得できるよう指導します。
- ・年次ごとの目標は一つの目安であり、研修プログラムでは研修環境や進捗状況により柔軟に対応します。
- ・3年目までに習得した知識、技術をさらに深化・確実なものとし、放射線科専門医として診療できるよう専門医試験に臨むとともに、サブスペシャリティ領域専門医（放射線診断専門医または放射線治療専門医）の方向性を決定できるよう指導します。

- ・専門性を持ちつつ臨床研究活動に携わり、その成果を国内外の学会で発表し、論文を作成できるよう指導します。さらに後輩の指導にもあたり、研究・教育が可能な総合力を持った人材となるよう指導します。
- ・毎年度、日本医学放射線学会認定教育講習会を受講するよう指導します。

<専門研修4－5年目>

選択、希望研修 放射線診断専門医、放射線治療専門医

放射線診断専門医、放射線治療専門医の選択専門領域に分かれて更に症例を積み重ねるとともに、自立した放射線科診断、治療になるための指導を行います。

6 研修例

聖隷浜松病院(県西部)：

救急疾患、周産期診療、がん診療等を総合的に診断、治療研修を行う：核医学専門医、IVR 専門医等の専門取得も可能。PET センター併設。

聖隷三方原病院(県西部)：

救急疾患、がん診療、認知症疾患等を総合的に診断、治療研修を行う。

中東園総合医療センター(中東遠)：

救急疾患、がん診療、周産期診療等を総合的に診断、治療研修を行う。PET センター併設。検診施設併設。

沼津市立病院(県東部)：

救急疾患、周産期診療を含む画像診断を中心に全般を研修する。

7 研修病院群

聖隷浜松病院

聖隷三方原病院

中東遠総合医療センター

沼津市立病院

8 研修期間

初期研修終了後の3年間の放射線科研修で放射線科専門医を取得。

その後、希望に応じて診断、治療のどちらかを選択し、2年間専門研修後、放射線科診断専門医あるいは放射線治療専門医を取得。